

第 18 回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

日 時：令和 7 年 2 月 13 日（木）13：30～15：00

場 所：Google Meet（Web 会議）

出席者：岩手県立図書館 諸岡 理恵、木村 玲

仙台市民図書館 渡邊 啓市、星 博之

福島県立図書館 梅津 直美、吉澤 風花

岩手大学図書館 遠山 正宏

福島大学附属図書館 菅野 悟、門間 泰子、芦原 ひろみ、鈴木 舞香

国立国会図書館 相原 雅樹

防災科学技術研究所自然災害情報室 池田 千春

防災専門図書館（防災科学技術研究所客員研究員） 堀田 弥生

東北大学附属図書館 三角 太郎、菅原 透、真籠 元子、落合 浩平、武田小百合（事務局）

配付資料：

資料1. 第18回東日本大震災アーカイブワークショップ参加者名簿

資料2. 第17回東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

資料3. 各機関の活動報告書 ー震災記録の収集を中心にー

1. 開会

資料 1 に基づき出席者より自己紹介を行った。

2. 前回の議事要旨確認

資料 2 に基づき、前回第 17 回の議事要旨の確認について説明があった。

3. 各機関からの活動報告

資料 3 に基づき、前回からの変更点・今年度の活動・特記事項を中心に、各機関より報告および質疑等が行われた。以下各館の事項は口頭説明の要点記載につき、詳細は資料 3 を参照のこと。

（1）岩手県立図書館

- ・2024 年 11 月現在、図書 9,057 冊、雑誌 6,558 冊、その他 19,403 点を所蔵
- ・指定管理者による「ふるさと未来課」という震災関連資料担当課を新設
- ・東日本大震災津波関連資料デジタル化は来年度以降も継続予定。これまでの実施件数は 9,000 点あまり。デジタル化済の資料は県復興防災部所管のいわて震災津波アーカイブ

「希望」に順次掲載予定

- ・「I-ルーム」で6件の展示・講演会・ワークショップを開催。
- ・県内外有識者、学識経験者による「いわて防災復興研究会」が2024年4月に発足し、図書館が事務局を務めている。概ね月一度のペースで研究会を開催。

【質疑】

- ・各種企画の立案者について

(2) 仙台市民図書館

- ・震災の日(3.11)が近づくと関連機関紙や小冊子を含めた一枚ものの資料を求める利用者も増えるため、検索しやすいように順次データの整備を進めている。
- ・「仙台防災未来フォーラム 2024」に出展。2025年度も出展予定。映像資料や電子図書館を活用し、前年とは異なった内容を検討している。
- ・2024年2～3月には「記録の回廊～図書館にねむる地震の記憶をよびおこす」をテーマに展示とリスト配布を実施
- ・電子図書館で震災文庫資料の提供を継続（現在118冊）
- ・震災体験職員と未体験職員によるディスカッションを中心に、震災伝承をテーマとした職員研修を実施

【質疑】

- ・未体験職員について
- ・震災体験職員の減少について

(3) 福島県立図書館

- ・2024年3月31日現在で図書15,135冊、雑誌7,730冊、視聴覚資料273点を所蔵
- ・資料情報サービス部の選書担当職員19名が兼任で、寄贈の依頼を含む収集を担当
- ・「震災復興ライブラリー増加資料一覧」(令和6年3月31日現在321タイトル)を作成・公開（https://www.library.fcs.ed.jp/?page_id=340）

【質疑】

- ・兼務の中での網羅的な出版情報の収集について

(4) 岩手大学図書館

- ・2025年1月末現在、図書4,003冊、雑誌620冊、新聞16紙、視聴覚資料等を所蔵
- ・「岩手県の自然災害と東日本大震災に関する資料リポジトリ」については、システム移行作業のため2024年8月からサービス停止中。新システムはDSpaceの最新版を採用したが、図書館として求めたい要件に不十分な点もあり、対応検討中。

(5) 東北大学附属図書館

- ・2024 年 10 月末時点で図書 5,387 冊、雑誌・新聞 3,204 冊を所蔵
- ・2024 年 4 月より、独自契約していたデータベースから東北大学総合デジタルアーカイブ(ToUDA)へ移行。移行準備と運用方針・体制の再検討に伴い、寄贈依頼は一時停止中。
- ・上記アーカイブの広報を兼ねて、SNS を利用した震災ライブラリーオンライン版の PR を附属図書館公式 X にて実施

【質疑】

- ・SNS 企画の反響について
- ・独自契約していたデータベースはどのようなものか

(6) 福島大学附属図書館

- ・2025 年 1 月末現在、図書 9,084 冊、雑誌 635 冊を所蔵。
- ・2024 年 10 月に図書館のホームページをリニューアルし、地震対応・震災関連資料収集のサイトを新設。現在の図書館の取組や過去の地震の対応、大学主催の展示など既に終了した企画のアーカイブとしても参照しやすくなったほか、震災に関する大学や教職員の取り組みがさらに可視化された。

(7) 国立国会図書館

- ・2024 年 12 月末、「ひなぎく」の検索対象メタデータは昨年度から 10 万件程度減少。収集コンテンツ数は、閉鎖アーカイブの承継により 10 万件程度増加。
- ・新規に 4 機関と連携を開始、4 機関の収集コンテンツを公開
- ・近年はアーカイブの承継に力を入れており、今年度は 2 件の閉鎖アーカイブを承継
- ・一部サービスの終了やシステム面での変更あり
- ・ジャパンサーチのソースコードを利用したひなぎくの後継システムを構築予定

【質疑】

- ・自動翻訳サービスの廃止の理由について

(8) 防災科学技術研究所自然災害情報室

- ・連携イベントは防災パネル展示 2 件と、図書館総合展への会場出展
- ・図書館総合展災害アーカイブコーナー「災害と図書館 2024」の東日本大震災特集で、令和 3 年「10 万冊が語りかける東日本大震災」で制作したアーカイブ書棚ポスターと 2021 年度図書館総合展【災害と図書館 2021】でオンライン公開した災害アーカイブ担当者インタビューの動画を展示
- ・災害資料アーカイブ機関連携メーリングリストは新たに 2 機関が加わり、2025 年 1 月現在 34 機関が参加。機関連携の一環として、神戸大学附属図書館資料展の展示資料を借りた阪神・淡路大震災 30 年の出張展示を企画中

(10) 防災専門図書館

- ・2024 年度企画展「南海トラフが動くとき ～安政東海・南海地震から 170 年～」を開催中。3D・VR にてアーカイブを公開予定。
- ・防災を身近に感じるグッズを作成するためのクラウドファンディングを実施。江戸時代の地震かわら版をデザインしたクリアファイルを作成・配布中。
- ・主なイベント協力・連携 4 件（東京都立図書館での防災講演、いばらき学ぼうさいへの出展、そなえりあ東京での防災いろはカルタ展示、防衛省研修会等）
- ・主なイベント出展 2 件（ぼうさいこくたい 2024in 熊本、図書館総合展 2024 等）
- ・熊本地震の災害遺構、災害資料収集図書館について情報提供

【全体を通しての質疑】

- ・「震災記録を図書館に」キャンペーンに関する各館における施策について
- ・電子図書館の所蔵資料について（仙台市民図書館）
- ・広報誌に掲載された資料の利用傾向について（仙台市民図書館）

4. その他

- ・次回ワークショップの日程、情報共有等について

事務局より、本ワークショップの次回の日程について、2025 年 12 月頃に開催の見通しである旨説明があった。

あわせて、その他の随時の情報共有・相談等には、本ワークショップ参加機関のメーリングリストを適宜活用いただくようアナウンスがあった。

以上